

千葉市薬剤師会「令和5年度学薬春の研修会」報告

千葉県学校薬剤師会
常任委員 杉谷宏枝

千葉市薬剤師会では4月19日(水) 19:30からZoomウェビナーにて「令和5年度学薬春の研修会」を実施致しました。お忙しい中70名の学校薬剤師の先生方にご参加賜りました。

本年度は学校からの相談も多い害虫駆除についてアース製薬株式会社マーケティング総合企画本部の大古久美子氏に1時間の講演をお願いしました。1時間という短い時間でしたが、主にゴキブリとネズミについてスライドや動画を用いてわかりやすく講演して頂き好評でした。講演の内容をお知らせします。

学校での駆除には子ども達への配慮が必要である。学校における駆除の主流は捕獲器及び物理的駆除になる。薬機法では害虫は衛生害虫と不快害虫に分類される。衛生害虫とは伝染病の病原体を運ぶことにより人の健康を脅かす害虫である。衛生害虫は医薬品、防除用医薬部外品で駆除する。不快害虫とは、衛生害虫以外で、多くの人が不快感を持つものや人を咬んだり刺したりして害を与える害虫のことである。不快害虫の駆除剤は日用雑貨品である。

ゴキブリは1.5m/秒で動き、飛行能力はなく、飛んでいるように見えるのは滑空である。滑空とは上に飛ぶのではなく上から下に傾斜で降下することである。ゴキブリは夜行性で、隙間、狭くて暖かい場所を好み、巣で集団生活をする。ゴキブリの通り道に薬剤を塗布しその上を通過したゴキブリを駆除する方法として、まちぶせ効果のあるスプレーを使用する。巣に潜んだゴキブリは簡単に駆除できない為、くん煙剤を使用する。最近発売された有効成分テネベナール配合のくん煙剤は一度くん煙すると1年間ゴキブリ駆除効果が持続し、即効性はないが害虫が暴れることなく眠るように駆除出来る。第2類医薬品として発売されている。

ネズミの駆除で大切なポイントはラットサインを見逃さないことである。ネズミが頻繁に通る場所は体の脂分などの汚れが付着し黒ずんでいる。それをラットサインという。そのラットサインをさがしてネズミの活動場所や侵入経路を推定する。ネズミの駆除剤に

は第1世代のワーファリンと第2世代のジフェチアロールがある。ジフェチアロールは1回の喫食で致死効果がある。また、ネズミはハッカ油を嫌がる。

最後にアタマジラミについても述べられ、養護教諭向けの保健だよりに使われる資料も会社で作成していることも話されました。

後半は学薬委員会より「環境衛生検査の判定基準と注意点」について研修を行いました。始めに学校保健安全法施行規則第二十四条を説明し、学校薬剤師としての業務内容を再確認しました。学校薬剤師は環境衛生検査をただ行うだけではなく、学校の環境衛生の維持及び改善に関し必要な指導及び助言を行うことが重要である。

今までの検査結果から、改善すべき点について以下の内容を説明しました。

飲料水検査の注意点としては、蛇口をアルコール消毒やライターで炙った後すぐに採水したため、TOC(全有機炭素)が高い値を示した。しばらく放水してから採水すること。DPD試薬の期限切れにより遊離残留塩素の異常値が確認された。DPD試薬の期限を確認すること。

給食室検査においては、手指消毒アルコール濃度は70%以上95%以下を用いるが、入手困難な場合は60%台のエタノールによる消毒でも一定の有効性があると考えられる報告もあるので60%台のエタノールでも差し支えないが濃度が低い場合は助言すること。

プール検査においては、取水口、循環濾過装置の概要、トリハロメタン用採水の注意点、過マンガン酸カリウム消費量の滴定について写真を用い説明。

照度検査においては、黒板、教室9カ所の測定方法、照度比の求め方。

空気環境検査においては、検知管の読み方、気積の求め方(教室の容積÷在室者数)。

最後に千葉県学校薬剤師研修会参加のご案内及び、日本薬剤師会編集の「学校環境衛生基準」解説2022をご活用くださいと締めくくった。